



Gazing at Nara

奈良を視る

三好和義
秋山亮二
百々武

入江泰吉 | 古き仏たち
Irie Taikichi | Ancient Buddha

2017 9.1金 | 12.24日

奈良・大和路は、仏教文化の礎が築かれた地であり、幾多の動乱や戦火をくぐり抜けた千年来のみほとけが鎮座しています。そして当時の文化と先人たちの思いを今に伝えてくれているばかりか、私たちに心の安らぎをもたらしてくれています。写真家・入江泰吉は奈良の風景と並んで仏像も精力的に撮影してきました。戦災に遭った体験から「心の拠り所」と接する一方で、みほとけの内に秘めた精神性を表現すべく苦心してきました。今回は、入江の仏像撮影のなかでとらえた写真群を紹介します。

「興福寺の阿修羅は、悪神が仏道に帰依して仏教を守護する善神に転じたもので、十二、三歳の少年をモデルにしたと言われているが、清純な乙女のイメージが強いのである。」
[大和路のこころ] (講談社 1977年)

入江泰吉記念
奈良市写真美術館
The Taikichi Memorial Museum of Photography Nara City